

令和3年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営内部評価

《 財団目標 》

郷土愛を育み、教育、学術及び文化を振興し、広域交流を促進する。

《 評価の考え方 》

- ・ 当財団の目標、運営方針及び事業活動方針にもとづいて行われる財団の業務や活動の全般を評価対象とする。
- ・ 業務や活動は、本年度事業計画に記載された具体的取り組み等について、個々の事業の達成度合いをそれぞれの担当が評価する。
- ・ 可能なものは数値目標を掲げ、それ以外の目標も評価しやすい具体的な表現を心がける。
- ・ 達成度は右の4段階で評価し、平均値で表示する。
- ・ 評価結果から成果と課題を抽出して共有し、具体的改善策を講じて財団運営及び組織活動の改善を図る。

達成度	
4	高い成果が得られている (95%以上)
3	一定の成果が得られている (80%以上)
2	まだ課題がある (80%未満)
1	成果が得られていない (50%未満)

◇伝国の社

事業名	活動方針	具体的取り組み (評価基準)	達成度	担当	成果 (○)	課題 (■) 及び改善策 (□)				
(1) 必要な図書、記録、資料の収集、保管、調査研究、公開展示及び利用に関する事業	① 上杉家・米沢藩ゆかりの資料及び郷土作家作品の収集と調査研究を体系的に進める	歴史関連	米沢藩・上杉家ゆかりの資料に関する情報の収集と整理に努める※	2.4	2.4	学芸・※上杉文化	■ 中長期的に継続可能な購入予算の確保			
			受入資料、寄託資料の概要調査・目録作成を進める。※	2.4						
		美術関連	米沢・置賜ゆかりの作家及び作品・二次資料の調査、情報収集を進める	2.4	2.2					
			上杉本洛中洛外図屏風に関する情報の収集と整理に努める	2.0						
			米沢市上杉博物館資料収集基本方針に基づき資料の収集・充実に努める	2.6	2.4					
			市民や関係機関とのネットワークを広げながら調査研究を進める	2.2						
		② 地域の人々が郷土に誇りと愛着をもち、観光客に感動を呼ぶ魅力的な展示をめざす	企画展示	特別展「上杉鷹山の生涯」職員評価平均値	3.0			2.4	学芸	○ 入館者数5,851名/見込15,000名 (39.0%) ○ 入館者数6,848名/見込10,300名 (66.5%) ○ 入館者数9,739名/見込15,800名 (61.6%) ○ 入館者数8,808名/見込10,900名 (80.8%) ○ 入館者数1,535名/見込2,800名 (54.8%)
				入館見込数を上回る	1.0					
				企画展「きかんしゃトーマス展」職員評価平均値	3.2					
				入館見込数を上回る	2.0					
	特別展「狩野派～永徳とその周辺～」職員評価平均値			2.7						
	入館見込数を上回る			2.0						
	企画展「上杉家伝来能面・能装束」職員評価平均値			2.8						
	入館見込数を上回る			3.0						
	コレクション展「上杉家文書VI」職員評価平均値			2.8						
	入館見込数を上回る			2.0						
		職員と来館者の評価を適時に行い成果や課題を明らかにする	2.3							
		常設展示	文華館では「上杉定勝」を6本の小テーマで紹介する	4.0	4.0					
	④ 文化財等の適正な保存・管理に努め、収蔵文化財総合データベースの充実を図る		新規受入資料のデータベース登録95%をめざす	2.0	2.7	学芸・※上杉文化	○ 51%登録完了 ○ 今年度より図書館郷土資料とデータベースと管理項目の共通化を進めた。 ○ 約200点の写真を新規登録			
			受入資料の撮影および画像の登録を500点進める	1.0						
未受入資料及び寄贈・寄託資料の調査・受入作業を計画的に進める ※			2.2							
企画展等を契機に未撮影資料の撮影を計画的に進める			2.6							
資料の燻蒸、収蔵庫のクリーニング及びIPM管理を適切に行う			3.0							
収蔵庫や展示室の適正な空気環境の維持に不断に努める			3.4							
所蔵する資料や芸術作品の修繕・修復を計画的に進める			3.4							
館蔵・寄託刀剣の手入れを計画的に実施する。(原則年1回) ※			3.8							
新規受入資料のデータベース登録、調査を計画的に進める			2.6							
新規受入資料、未撮影資料の撮影を計画的に進める			2.6							
	収蔵文化財総合データベースの登録件数を1万4千件まで増やす	1.0	2.1	学芸	○ 13,852点 (3月末現在28点追加)					
(2) 教育・学術・文化施設との連携及び教育普及に関する事業	② 日常的な地域学習の場となる多様なプログラムを用意し、学社連携を推進する	PSは季節企画と造形体験を柱に展開し、前年度の入場者数を上回る	4.0	2.6	学芸	○ 利用者数6,785人 (前年度比158%)利用者数の回復がみられた。  ○ 出前授業6回7時間 ○ 実習6名				
		WSは定員の80%以上の申込数をめざす	2.0							
		チルドレンキュレーターズ (こども学芸員) の育成を継続して行う。	3.2							
		ミュージアムスクールと出前授業を合わせて年15時間以上実施する	1.0							
		博物館実習とインターンシップ指導プログラムの充実を図る	2.8							

■ 歴史展示が少なかったことについて、年間の展示計画と館の方針の確認を行う。また、評価方法を見直す。
■ 群資料の登録が追いついていないため、一部補助職員のルーティンとしながら計画的に進める。
■ 撮影に要する時間と他業務との兼ね合い。
■ 寄贈等受入決定後の手続きを市と連携して速やかに行う。
■ 資料管理データベースは、情報登録後も資料の特性に合わせた項目の調整や不具合修正を継続実施。今年度は作業が計画通り進まなかったため、次年度は委託業者、市と調整し遅れを取り戻しスムーズに進められるようにする。
■ 技術の向上と維持
■ 委託業者の作業の遅れ
■ データ修正時間の確保
■ コロナ禍で学校からの依頼が減少。
■ インターン受入無し

	③ 生涯学習施設また地域の交流拠点として、市民の学習と活動の機会を提供する	教育事業	特別展等の理解深化を目的に年2回の講演会等を開催する	2.0	3.4	学芸	○ 3回計画し、オンライン開催、通常通り開催を各1回。 ○ 10回開催 ○ 番組「奥羽仕置と上杉景勝」製作 ○ 6月と11月に実施	■ 1回はコロナのためやむなく中止。
			企画展等の会期中に年10回以上のGTを開催する	4.0				
			文華館では小テーマごとに計12回のCTを開催する	4.0				
			上杉家・米沢藩の歴史理解に資するコンテンツを新規に制作する	4.0				
			レファレンスは内規に従って処理し、データベース化を進める	3.4				
			博物館所蔵美術作品を年2回、市内の学校・公共施設に貸し出す	4.0				
			ホームページやブログ、SNSでの充実・更新につとめる。	3.0				
			内覧会の広報に努め、1回あたり平均20名超の参加をめざす	-				
			中学生・高校生の「無料観覧証」の利用促進に努める	1.5				
			総務	1.5				
	④ 市民の経験や知識及びボランティアと協働し、各施設のサービスの充実とサービスに努める	施設貸与事業(博会議室)	貸出基準にもとづき適正に貸与する	4.0	3.7	舞台		
			金銭処理や利用実績の管理及び各種報告を適時適切に行う	4.0				
			利用者のニーズを把握し、市と連携して利用促進に努める	3.0				
④ 市民の経験や知識及びボランティアと協働し、各施設のサービスの充実とサービスに努める	サポーター運営(伝国)	「活動要綱」に基づいて活動し登録数及び活動人数を増やす	3.0	2.5	サポーター担当	○ 登録者数 31名(前年比91.18%)	■ コロナでの活動機会減少	
		年間活動計画を策定し、サポーターの活動機会を広げる	2.7					
		よりよい活動に資するため研修を実施する	2.0					
		爾後の活動に資するためアンケートを実施する	2.3					
	ファンクラブ事業	特典の周知や広報活動を強化し250人の会員登録をめざす	4.0	2.0	FC担当	○ 登録者数285名(前年比115.9%) ○ 「狩野派」特別鑑賞会1回開催。 ○ チケット先行予約と割引枚数を4枚に統一。	■ 未利用会員が26.0%	
		ファンクラブ会報(年2回)及び各事業情報を適時に送付する	3.0					
		ファンクラブ会員限定事業を2回開催する。	2.0					
		博物館及びホール事業未利用会員を15%未満に減らす	1.0					
さらに魅力あるクラブをめざしてPRを強化し、特典の見直しを進める	2.0							
③ 芸術・文化活動の創造、支援及び鑑賞機会の提供に関する事業	① 優れた作品や舞台芸術に親しむ機会を提供し、芸術・文化活動の創造気運を高める	県補助事業	LIVE @ HALL de JAZZ~ジャズ実験室へようこそ~ 職員評価平均値	2.8	3.0	舞台	○ 来場者数 38名/目標 100名(38%) ○ 来場者数 231名/目標 233名(99.14%) ○ 来場者数 207名/目標 238名(86.97%) ○ 来場者数 185名/目標 238名(77.73%) ○ 来場者数 224名/目標 227名(98.68%) ○ 来場者数 322名/目標 459名(70.15%)	■ コロナ感染拡大対策のため中止 ■ コロナ感染拡大対策のため中止
			入場見込数を上回る	1.0				
		市共催事業(文化ホール)	若手音楽家育成活動を支援する	3.0				
			絵本の時間だよ 職員評価平均値	3.6				
			入場見込数を上回る	4.0				
			山響とみんなで作る音楽会 職員評価平均値	3.3				
			入場見込数を上回る	3.0				
			真野響子一人芝居 職員評価平均値	3.3				
			入場見込数を上回る	2.0				
			吹奏楽の日コンサート 職員評価平均値	-				
	入場見込数を上回る		-					
	AUN Jクラシックオーケストラ 職員評価平均値		3.2					
	入場見込数を上回る	4.0						
	円楽たい平二人会	-						
	入場見込数を上回る	-						
	山響ユアタウンコンサート 職員評価平均値	3.3						
	入場見込数を上回る	2.0						
	よねざわ市民ミュージカル育成活動を支援する	4.0						
	事業計画書や広報計画書及びチラシ等を適時に作成し、広報活動を強化する	2.0						
	自主事業入場者のアンケートを分析して、次年度以降の採択事業に反映させる	3.0						
③ 活動を楽しみ交流する場を提供し、次世代を担う子どもや若手芸術家を育成する	地元のアマチュア活動団体等に活躍・研鑽の場を提供する		3.0	3.0	舞台	○ 親子44名招待		
		地域の小中高生50名の、当ホールコンサートへの招待を支援する	3.0					

④ 能舞台を活用して伝統芸能の継承・普及につながるプログラムを展開する	県補助事業	山形県能楽の祭典 職員評価平均値	-	2.8	舞台	○ 来場者数 194 名/見込 272 名 ( 71.32 %)	■ コロナ感染拡大対策のため中止	
		入場見込数を上回る	-					
		能面から知る能の世界 職員評価平均値	3.0					
		入場見込数を上回る	2.0					
		狂言クラブでは年12回以上の稽古、年4回以上の発表を行う	3.0					
	能狂言を通して広域の交流を促進し、演技の向上をめざす	3.0						
	(4) 歴史・芸術・文化活動拠点の運営に関する事業	① 上杉家・米沢藩及び郷土作家研究の拠点として、広く開かれた施設をめざす	所蔵資料の解説、写真撮影及び目録作りを計画的に進める	2.2	3.1	学芸	○ 鷹山展、狩野派展、能面展で発行	■ 昨年度に引き続きコロナ禍で活動休止
			資料の特別利用・貸出及び掲載許可等は規則にもとづいて行う	3.4				
			年間2冊以上の企画展図録を編集・発行する	4.0				
			サポーター洛案内人による国宝屏風の説明を日常化する	-				
年間10回程度、研修会や講演等の講師として成果を市民に還元する			4.0					
大学や研究機関との協力や共同研究を進め、学芸員の力量を高める		2.0	2.9	総務学芸	○ 刀剣のクリアファイルを開発 ○ 販路拡大に向け調査・検討を実施  ○ 前年度比約62%	■ 資料の調査や上杉文書調査事業等での連携を行っているが、成果を出すためには、時間の確保や研究テーマ等を総合的に考えていく必要がある。		
ミュージアムショップ事業		3.0						
展示会と連動した運営で、図録や商品を積極的に販売する		4.0						
新規商品の開発に取り組み、製品化する		2.5						
利用者の利便性と販路拡大のためネットショップを充実させる		3.0						
受託商品の充実を図り、他館への委託販売にも積極的に取り組む	2.0	3.5	事務局長	○ 事業等の情報を共有し、エリア内のおもてなしに活かしている。	■ 懇話会はそもそも情報共有を主としており、具体的な活動は想定していない。 ■ 開催なし			
④ 上杉文化エリアの施設団体と協力し、価値ある文化及び観光の交流拠点をめざす	2.0							
展示会やホール自主事業で、上杉文化エリア懇話会会員との連携を促進する	-							
観光拠点の一つとして、米沢四季のまつりに積極的に参加する	3.7							
施設内外の案内表示の修繕・更新及び環境の美化に努める	4.0							
ホームページ、ブログ、フェイスブックの充実・更新に努める	4.0	事務局長	総務	○ 延べ1,064名(前年比102%)				
有料・無料の広告媒体を積極的に活用して広報に努める	4.0							
博物館無料入館の日の周知・広報に努め、前年度同日の入館者数を上回る	4.0							

◇ナセBA

事業名	活動方針	具体的取り組み(評価基準)	達成度	担当	成果(○)	課題(■)及び改善策(□)		
(1) 必要な図書・記録、資料の収集、保管、調査研究、公開展示及び利用に関する事業	① 上杉家・米沢藩ゆかりの資料及び郷土作家作品の収集と調査研究を体系的に進める	郷土ゆかりの図書・雑誌・古典籍・古文書等の調査・収集に努める	3.0	3.0	郷土資料	○ 絶版資料等の調査を行い、現在購入できる図書は購入した。  ○ 今年度の調査分はほぼ完了した。	■ 遊動的に収集すべきものが多々あり、先人顕彰の展示の際の調査で判明したものを内規に沿い、購入していく必要がある。	
		広幅地区の神社や堂宮の資料・民俗等を調査し、年度内に報告書を刊行する	3.0					
	② 地域の人々が郷土に誇りと愛着をもち、観光客に感動を呼ぶ魅力的な展示をめざす	先人顕彰コーナー	「資料紹介 清水彦介」職員評価平均値	3.3	3.2	郷土資料図書		
			「吾妻健三郎・大橋音羽」職員評価平均値	3.5				
			「新聞記事で振り返る夏季オリンピック 1952-2016」職員評価平均値	2.7				
			「新聞記事で振り返る災害と防災」職員評価平均値	2.6				
			「図書館の絵図展7」職員評価平均値	3.3				
			「図書館フェア」職員評価平均値	3.1				
	「写真で見る米沢のむかしパート4」職員評価平均値	3.8						
	「田中俊雄展」職員評価平均値	3.5						
③ 市民に必要な図書・記録等の収集に努め、広く利用に供し、相談に応じる	市立米沢図書館資料収集方針に基づき図書・資料の収集・充実に努めると共に、利用者の利便性に配慮した適切な配架を行う	利用者の求めに応じ、他館との相互貸借を円滑に行う	3.4	3.1	図書郷土資料	○ 登録者数 1,209名(R2 1,200名) ○ 貸出冊数 376,211冊(R2 328,886冊) ○ 貸出冊数 34,791冊(R2 29,139冊)		
		新規登録者数は1,800人超をめざす	3.6					
		本館の年度貸出冊数は40万冊を上回る	2.0					
		自動車文庫の年度貸出冊数は3万5千冊をめざす	3.0					
		自動車文庫の年度貸出冊数は3万5千冊をめざす	4.0					
		図書館団体貸出制度の利用促進に努める	3.0					
各種のレファレンスや相談に丁寧に対応し、データベース化を進める	3.0							

		④ 文化財等の適正な保存・管理に努め、収蔵文化財総合データベースの充実を図る	新規受入資料のデータベース登録、調査を計画的に進める	2.0	1.8	郷土資料		DB登録画面が準備出来次第、入力予定。						
			新規受入資料、未撮影資料の撮影を計画的に進める	3.0										
			収蔵文化財総合データベースの登録件数を1万4千件まで増やす	1.0										
			デジタルライブラリー公開資料の翻刻掲載を計画的に進める	1.0					■ 翻刻掲載をまだ行っていない。					
② 教育・学術・文化施設との連携及び教育普及に関する事業	① 家庭教育の向上や学校の学習活動の支援に力を注ぎ、子どもの読書活動を推進する		「米沢市子ども読書活動推進計画」に基づき、その中心となる「家読」を積極的に推進する	3.6	3.6	図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 贈呈416組 (R2 446組)</li> <li>○ 441点 展示観覧者2,121名 (R2 407点 1,937名)</li> <li>○ 図書館貸切参加者24名・本のお楽しみ袋 322冊ガチャガチャ景品866個 (R2 594個)</li> <li>○ 3回の配本・回収を実施</li> <li>○ GoGoアタゴオル2回開催</li> <li>○ 参加者231名 (R2 396名)</li> <li>○ 配布数456冊 (R2 410冊)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コロナ感染拡大対策のため中止</li> <li>■ 対象を置賜地区の幼児から高校生へ拡大した</li> </ul>						
			ブックスタート事業として、7か月児健康教室時に絵本の読み聞かせと絵本2冊贈呈を行い、図書館の利用促進を図る	4.0										
			読み聞かせの楽しさに触れてもらう「おはなしかい」を月3回開催する	-										
			市内小中学校と連携し、読書活動推進の一環として小中学生読書感想画展を開催する	4.0										
			夏休み子ども図書館フェアを開催し、前年度と同等、もしくは上回る参加者をめざす	4.0										
			小学校巡回文庫は市内全小学校を対象に年3回の配本・回収を行う	4.0										
			「アタゴオル」による絵本読み聞かせを年2回以上開催する	4.0										
			関係機関と連携してスタンプラリーを実施し、前年度の達成者数を上回る	2.0										
		「読書通帳」の利用促進を図る	3.0											
		③ 生涯学習施設また地域の交流拠点として、市民の学習と活動の機会を提供する	教育事業	ふるさと歴史講座を年3回開催する	4.0	4.0	郷土資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 11月に3回実施</li> <li>○ 3月に3回実施</li> <li>○ 10月に3回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コロナ感染拡大をうけ2月から3月に順延</li> </ul>					
				古文書解読講座を年2回開催する	4.0									
				文学講座を年3回開催する	4.0									
				来館者の読書意欲を高める特集コーナーづくりに努める	3.8									
				ナセBAホームページ、ツイッターの充実・更新に努める	2.8									
				「図書館だより」を年4回発行する	4.0					3.2	図書郷土資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4/1、7/1、10/1、1/1の4回発行</li> <li>○ 813名 (付録抽選応募者含む・前年比128%)</li> <li>○ 英語多読サロンを8回、相談会を2回、多読シンポジウムを開催</li> </ul>		
				読書週間図書館フェア関連事業の参加者は前年度と同等、もしくは上回る参加者をめざす	4.0									
				英語多読を推進し、英語多読サロンを月1回、相談会を月1回開催する	4.0									
		読書活動の推進のため、読書会を隔月1回開催する	3.0											
		図書館で導入しているデータベースの周知につとめ利用促進を図る (新規)	2.3											
		障がい者の生涯学習支援体制の整備を進める	2.0											
	(駐車場)	金銭処理や利用実績の管理及び各種報告を適時適切に行う	4.0	3.8	総務									
		利用者のニーズを把握し、市と連携して利用促進に努める	3.7											
	④ 市民の経験や知識及びボランティアと協働し、各施設のサービスの充実に努める	サポーター運営(図書館)	年間活動計画を策定し、サポーターの活動機会を広げる	2.0	1.9	図書郷土資料		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コロナ感染拡大対策のため活動を縮小</li> <li>■ 活動縮小のためサポーター通信は発行せず</li> </ul>						
			よりよい活動に資するため研修を実施する	1.8										
			図書館サポーター活動への理解促進に向けた広報を充実する	1.8										
		(ギャラリー)	展示の企画や運営に市民の声を反映し内容の充実に努める	3.5		総務企画副館長								
③ 芸術・文化活動の創造、支援及び鑑賞機会の提供に関する事業	① 優れた作品や舞台芸術に親しむ機会を提供し、芸術・文化活動の創造気運を高める	ギャラリー	「アーツよねざわ・100祭」 職員評価平均値	3.8	3.4	総務企画図書郷土資料学芸美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 来場者数1,393名</li> <li>○ 来場者数1,380名</li> <li>○ 来場者数1,909名</li> </ul>							
				「秋山庄太郎展」 職員評価平均値					3.2					
				「ARTS MEET OKITAMA2022、2021大賞展」 職員評価平均値					3.3					
				芸術団体や上杉博物館と連携し、市民の芸術鑑賞の機会を広げる					3.7					
				オープンギャラリーでは郷土出身作家作品を年間4回展示する					4.0	3.8		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3期に分け遠藤桑珠、土田文雄、桜井祐一を紹介。途中展示替をし、5回作品を入れ替えた。</li> </ul>		
	② 充実した展示機能で新たな芸術活動にも対応し、市民の活動成果を広く公開する		市民の多様な芸術文化活動の発表の場をつかいやすく提供する	4.0	3.6	副館長総務企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 稼働率87.5%</li> <li>○ 稼働率73.8%</li> </ul>							
				市民の芸術文化活動の拠点として機能する				3.5						
				市民ギャラリーは公平・公正を旨として運営し、80%以上の稼働率をめざす				3.0						
			体験学習室は50%以上の稼働率をめざす	4.0										

	③ 活動を楽しみ交流する場を提供し、次世代を担う子どもや若手芸術家を育成する	中心市街地の活性化支援としてウッディコンサートを年間5回開催する		3.0	3.5	副館長 総務企画 舞台	○ 4回開催 ○ ARTS MEET OKITAMA (AMO大賞、若手アーティスト奨励賞〈置賜文化フォーラム協力〉)に今年度から審査員制度を導入			
		次世代を担う子どもや若手芸術家の育成を支援する		4.0						
(4)	歴史・芸術・文化活動拠点の運営に関する事業	① 上杉家・米沢藩及び郷土作家研究の拠点として、広く開かれた施設をめざす	古文書資料や郷土資料の整備を進め、市民や研究者の利用に供する		3.0	3.0	郷土資料	○ 「米沢新聞」等のマイクフィルム資料のデジタル画像公開(館内)。自館関連資料の整理終了。地域史料整理に着手。		
			芸術文化活動のための施設貸与業(ギャラリー)	貸出基準に基づき、公益性を保って適正な運営に努める		4.0	3.9	副館長 総務企画		
				米沢市芸術文化協会と連携し、利用者に喜ばれる運営を行う		4.0				
				施設情報の発信に努め、地域の芸術文化の振興に寄与する		3.7				
				施設の管理を適切に行い、施設・設備の適正な維持に努める		3.7				
			③ 利用者の声を集め反映する仕組みを整え、市民に開かれた運営をめざす	清掃や環境美化に努め、清潔で快適な空間づくりに努める		3.0	3.2	図書 郷土資料	○ 9月に利用者アンケートを実施	
				利用者の意図を理解した上で説明と対応を丁寧に行う		3.4				
				各種アンケート調査を実施・分析し、来館者サービスに反映させる		3.4				
				市民の声を職員会議等で検討・共有し、運営の改善に努める		3.2				
				図書館蔵書の除籍と廃棄を適時に行う		3.0				
⑤ まちづくりネットワークと連携し、にぎわいと活力あるまちづくりに寄与する	市中心市街地活性化協議会等と連携してにぎわいづくりに貢献する		3.0	3.0	図書館長	○ 7月に中活協主催で「ナセBA開館5周年記念イベント」を開催、パルーンリリースやマルシェなどを行った。				
	「こまや」を活用し、地元商店や各種団体との共催事業を季節にあわせ行う		3.0							

#### ◇座の文化伝承館

事業名	活動方針	具体的取り組み(評価基準)		達成度	担当	成果(○)	課題(■)及び改善策(□)	
(4) 歴史・芸術・文化活動拠点の運営に関する事業	② 市民の伝統文化活動を支援するとともに、歴史・芸術・文の情報発信に努める	座の文化伝承館	「座って行う日本文化」の活動施設として適正な運営に努める	3.7	3.7	総務	○ 件数84件(前年比112%) ○ 利用者数803名(前年比90%)	
			喜ばれる運営をめざし、利用件数・利用者数で前年度並みを維持する	4.0				
			施設の管理を適切に行い、施設・設備の更新を計画的に進める	3.3				
		座の文化伝承館自主事業	第30回市民茶会への入場者200名以上をめざす	-	3.0	舞台 学芸 サポーター担	○ 入場者195名 ○ リスト化の進んだ浜田蔵書から、美術書・詩集を中心に紹介できた。	■ コロナ感染拡大対策のため中止 ■ □設備上、感染対策、資料の安全対策に限界があった。今後の自主事業のあり方を検討していく。 ■ コロナ禍で一緒の作業ができず。
			「浜田浜雄と本の世界」展の入場者200名以上をめざす	3.0				
			サポーターとの協働を積極的に進める	-				

◇財団共通

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□）			
(5) 財団の適正な運営に関する事業	① 公共施設であることを念頭に、経営基盤の安定と利用者及び収入の確保に努める	法令や関係協定及び財団の定款・諸規程に基づき適正な管理を行う	4.0	2.8	事務局 長	○ 育児・介護休業法の改正に伴う規程の整備のほか、規程の整備を行った。 ○ 通常理事会及び評議員会を開催したほか、必要に応じて役員会を開催し、円滑に財団の運営を行った。 ○ 監査等での指摘事項等はない。	■ コロナ禍もあり、研修等への派遣ができなかった。 ■ 前年度よりは回復したが、依然コロナ前より大きく減少している。		
		理事会や評議員会等の開催及び運営を円滑に行う	4.0						
		予算の執行及び財務管理を適正に行う	4.0						
		財団運営に必要な外部の研修会及び研究会等へ計画的に派遣する	1.0						
		伝国の杜の利用者総数は20万人を上回る	1.0	4.0	総務	○ 110,766名 (R2:89,796名、R1:175,726名)			
		博物館入館料は収入見込み額を確保する	2.0						
		ギャラリー、駐車場の使用料を適正に徴収し期限内に市に納付する	4.0	2.0	総務	○ 到達度53%			
		50万円を目標に寄附金受け入れ業務に積極的に取り組む	1.0						
		博物館常設展・企画展の延べ入館者数は12万人超をめざす	2.0	2.4	舞台	○ 受入20,000円			
		博物館体験学習室利用者数は延べ1万2千人超をめざす	2.0						
	県補助事業及び市共催事業の会計事務処理を適正に行う	4.0	2.0	図書館 長	○ 69,638名（達成率 58%） ○ 6,785名（達成率 57%）				
	置賜文化ホール自主事業入場者4千人超をめざす	1.0							
	図書館閲覧室の延べ入場者数は20万人超をめざす	2.0							
	図書館学習室の延べ利用者数は8万人超をめざす	2.0							
	② 施設個々の機能の向上と発揮に努めるとともに、施設相互適切な連携を進める	職員の勤務シフトを計画的に作成し、緊急時の職員配置も確実に行う	各施設の総合管理業務委託者と調整を密にし円滑な施設管理に努める	4.0	4.0	総務 総務企 画	○ 利用者数63名（前年比700%）		
			図書館カード利用による博物館入館者数は前年度を上回る	4.0					
		市民ギャラリー自主事業へ貸し出す美術作品等の選定・管理を適切に行う	3.3	学芸 総務企 画					
		博物館の展覧会に合わせて関連図書の特集コーナー等を設ける	3.7	図書・ 郷土					
	③ 利用者や職員の安心・安全を第一に、施設設備の保守及び危機管理に取り組む	業務・事業の見直しを進め、時間外労働の縮減に努める	施設・設備の保全に努め、修理と更新を計画的に進める	2.0	2.3	事務局 長	■ 伝国の杜は開館以来20年が経過し、改修等が必要となっているとともに、ナセBAも改修が必要な箇所が発生しており、市の公共施設総合管理計画に基づく計画的な整備を要望していく。 ■ 再検査等の指導を受けた職員への受診勧奨等が徹底できなかった。		
			職員の健康診断及び健康保持に関する業務を適正に推進する	3.0					
		火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施する	4.0						
		資料や施設設備・機器の修繕・更新を計画的に進め、環境整備及び維持管理に努める	火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施する	4.0	4.0	総務		○ 計画通り実施（7/29、12/23）	
			利用者の個人情報関係法令と財団規程にもとづき厳密に扱う	3.8					
		④ 複数の内部評価・外部評価に取り組み、運営やサービスの改善に努める	財団運営の目標及び方針を明示し、財団運営自己評価シートを作成する	複数の評価に取り組み、事業やサービスの改善・向上に努める	4.0	3.0		事務局 長	○ 全員が健康診断を受診した。 ○ 計画通り実施（5/27、11/25）
				新採研修や各種研修会を効果的に実施し職務能力の向上をめざす	3.0				
				伝国の杜運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	2.0				
ナセBA運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	3.0								
普及ミーティングを毎月開催し、スタッフの資質向上をめざす	接遇マニュアルの更新を進め、接客サービスの向上に努める		4.0	3.9	図書 郷土資 料				
	新型コロナウィルス対応をガイドラインに沿って実施した。		3.4						
④ 複数の内部評価・外部評価に取り組み、運営やサービスの改善に努める	新採研修や各種研修会を効果的に実施し職務能力の向上をめざす		伝国の杜運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	4.0	3.0	事務局 長	○ 内部評価と外部評価の結果を検証し、改善を図っている。 ○ 予定通り実施した。 ○ 予定通り実施した。		
			ナセBA運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	3.0					
④ 複数の内部評価・外部評価に取り組み、運営やサービスの改善に努める	普及ミーティングを毎月開催し、スタッフの資質向上をめざす	接遇マニュアルの更新を進め、接客サービスの向上に努める	4.0	3.7	総務 学芸	■ アンケートの回収率を高める必要があるほか、評価方法の見直しも検討する必要がある。 ■ 体系的な研修体制を構築していく必要がある。			
		新型コロナウィルス対応をガイドラインに沿って実施した。	3.4						
④ 複数の内部評価・外部評価に取り組み、運営やサービスの改善に努める	新採研修や各種研修会を効果的に実施し職務能力の向上をめざす	伝国の杜運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	4.0	4.0	事務局 長	■ ミーティングが情報共有以上の場として機能するような工夫。			
		ナセBA運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	3.0						
④ 複数の内部評価・外部評価に取り組み、運営やサービスの改善に努める	普及ミーティングを毎月開催し、スタッフの資質向上をめざす	接遇マニュアルの更新を進め、接客サービスの向上に努める	4.0	3.7	総務 学芸	■ アンケートの回収率を高める必要があるほか、評価方法の見直しも検討する必要がある。 ■ 体系的な研修体制を構築していく必要がある。			
		新型コロナウィルス対応をガイドラインに沿って実施した。	3.4						

網掛け は収益等事業